



半貫 光芳  
(統一)

**LRT導入を問う  
住民投票の実施を**

**問** LRT事業は、事業費の大幅増加、渋滞解消にあまり有効でないこと、官設民営から事実上の官設官営へと、当初計画から良い方向に進んでいない。そのため、導入を問う住民投票などで民意を問うべき。

二元代表制の下で議論しているとの答弁だが、賛成・反対についてそれぞれの考えから議案に依り、市政をチェックすることが議会の役割であり、反対の意見の者に賛成の立場での意見を求めるのは二元代表制ではない。十分な議論がなされていないと考えることから、二元代表制を補完するものとして、住民投票が必要である。

**答** LRT事業については、長年にわたり、本会議での一般質問や予算の議案審議、常任委員会での審議、議員説明会などを通じて議会の意見を伺い取り組んできた。

また、説明会やオープンハウスの開催、広報紙への掲載など、あらゆる機会を通じて、導入空間の見直しなどにより事業費が増加したこと、交通が円滑に処理されると評価したこと、公設民営による取組であることなどの最新情報を説明し、市民の意見を真摯に受けとめ、疑問などに答えてきた。

今後とも、市民理解の促進に努めるとともに、二元代表制の下、議会と執行部との間で十分に議論しながら進めていく。

**その他の質問項目**

- ①LRTとネットワーク型コンパクトシティ
- ②LRT導入と市民合意
- ③LRT導入による道路の渋滞
- ④LRT建設による市財政への影響
- ⑤官民連携によるLRT運営会社



佐々木 均  
(愛うつのみや)

**携帯端末を活用した  
情報発信ツール宇都宮アプリの導入を**

**問** 総務省の調査では、携帯電話の世帯普及率は94%に達している。また、その中でスマートフォン普及率は、年々増加し62%との調査記録もあり、特に20代の使用率は90%、30代の使用率は80%との事である。

新聞未購読世帯の増加やテレビ・ラジオ離れが叫ばれる昨今、携帯端末を利用しない限り、公平で正確な手元に届く積極的な行政サービスを行うことは難しいと考える。

そこで、市民が必要とする全ての情報を網羅し、情報発信のツールを集約して登録者数を増やす宇都宮アプリを導入すべきと考えるがどうか。

**答** 災害情報など即時性が求められる情報については、市ホームページやメール配信サービスなどで情報発信を行っている。また、学校では保護者に緊急情報などのメール配信を行っている。

情報の受け手側としては、自分が欲しい情報のみを手に入れたと思う人もいることから、慎重に検討していく必要があると考えている。

今後、市における情報提供のサービス水準の向上を検討していく中で、議員提案の宇都宮アプリを含め、携帯端末向けアプリの活用について検討する。

**その他の質問項目**

- ①LRTを含む中長期の行政計画における市長の政治姿勢
- ②市の結婚支援と少子化対策の取り組み
- ③人口減少と少子化対策としての出会い創出
- ④手元に届く積極的な行政サービス
- ⑤オリオンスクエアの利用環境



**オリオン通りの  
タイル洗浄作業  
本格的に実施すべき**

**問** オリオン通りは、美化環境を保つため、商店街やボランティアにより、定期的に清掃や洗浄作業が行われている。

しかし、長い間に付着した汚れが徐々に黒ずみを発生させており、簡単な清掃作業では除去できない。

今後市民に親しまれ、未永く宇都宮の中心商店街の象徴としての役割が担えるよう、本格的なタイル洗浄作業を施してはどうか。

**答** 現在市においては、道路利用者の安全性を確保するため、主要な路線において、定期的に堆積した土砂を除去すること



馬上 剛  
(自民党)

で排水溝の目詰まりの防止を図っている。

しかし、オリオン通りは路面清掃車の特性上、研磨による石張りの破損や飛び石による店舗の損傷につながるため、路面清掃を実施するのは難しい状況である。

このため、商店街や清掃ボランティア団体、市職員のボランティアによるごみ拾いなどの清掃を行ってきたが、一部の路面に汚れがある。

今後は、商店街や清掃ボランティア団体と連携を強化しながら、手押し式の路面洗浄機などを活用した清掃を実施することで、快適な道路環境の確保に取り組んでいく。

**その他の質問項目**

- ①市長の政治姿勢（未来の宇都宮、LRTの導入）
- ②安全安心なまちづくり（JRT宇都宮駅東重点地区の治安ほか）
- ③活力ある社会を築くための産業振興策
- ④中心市街地活性化策（民間主体事業への取組）
- ⑤都市の魅力を高める施策（都市ブランド戦略ほか）